

姉妹都市交換学生事業を活用した フェアトレードの推進

横須賀市（神奈川県）

～ クレアより ～

姉妹自治体交流表彰については、創意工夫に富み、地域振興につながる交流活動を行っている団体を表彰し紹介することで、全国への波及効果を狙い、2006年度より実施しています。第6回（2011年度）表彰は、横須賀市、釜石市、竹田市が受賞しました。

今回はそのうち、フェアトレードの啓発と国際交流を結びつけた、非常にユニークな取り組みをしている横須賀市の活動を紹介します。

1 はじめに

横須賀市は4つの海外都市と姉妹都市提携をしています。米国コーパスクリスティ市、フランス・ブレスト市、英国メッドウェイ市、オーストラリア・フリマントル市です。それぞれの都市には商業港や軍港があり、本市との地理的・歴史的なつながりがあることから姉妹都市提携を行いました。おのおの都市とはスポーツ交流、音楽交流、職員相互派遣、提携周年行事として市民訪問団の派遣受け入れなどさまざまな交流事業を展開しています。その都市間交流事業の中で姉妹都市4市に共通し、最も歴史の長い事業が姉妹都市交換学生プログラムです。

2 姉妹都市交換学生プログラム

姉妹都市交換学生プログラムは今から45年前の1967年に米国コーパスクリスティ市との間で始まりました。その後、フリマントル市、メッドウェイ市、ブレスト市の順で加わり、2011年度までに293人の高校生を派遣し、271人を受け入れました。

このプログラムは毎年夏休みの2週間、4つの姉妹都市に2名ずつ合計8名の高校生を全額公費で派遣します。また同数の高校生

を姉妹都市から受け入れます。

派遣高校生は筆記とリスニングの1次試験、面接とグループワークの2次試験を経



2011年度姉妹都市派遣学生

て選ばれます。難関を突破した合格者は派遣準備研修で、自分自身と自分のまちを徹底的に好きになることからスタートし、横須賀の歴史・産業や国際マナー、多文化共生など国際交流の基本を学びます。帰国後には事後研修で報告書作成に向けて文章表現・アウトプットの方法を中心に発信力を磨きます。

このプログラムの目的は「続いていく横須賀応援団の育成」です。交換学生のOB・OGたちは横須賀市総合計画審議会委員、まちづくり評価委員会委員、文化振興審議会委員、成人のつどい実行委員などを喜んで引き受けてくれ、本市のさまざまな分野で活躍しています。

3 フェアトレードの推進

「一杯のコーヒーで国際協力！」このキャッチフレーズで横須賀市は国際協力、環境保全、平和推進の観点からフェアトレードの啓発を推進しています。

フェアトレードは「公正貿易」と訳されます。途上国で生産される安全な農作物や衣類などを適正な価格で購入することによって、途上国における雇用の確保と生産者の生活の安定を促し、技術力の向上と経済的な自立を進める活動です。

フェアトレード啓発の推進は政策推進部国際交流課が展開しています。同課の担当事業は、国際式典事業、国際化推進事業、都市間交流事業と大きく3つに分かれています。これらの3事業すべてにおいてフェアトレードを啓発しています。

国際式典事業では、年に4回開催する国際式典のレセプションで提供しているコーヒーをフェアトレードのコーヒーに置き換えました。コーヒーブースにはフェアトレードの「のぼり」や説明パネルを置いて、式典参加者にPRしています。



国際ユースフォーラムのフェアトレードパネル

国際化推進事業の中で平和啓発事業として開催する「市民平和のつどい」のテーマをフェアトレードにして講演会や貿易ゲームなど行い、広く市民に理解を求めています。フェアトレードを推進することによって途上国生産者の生活が安定し、教育を受ける機会が増えていくと、文化・風習などを捉える視野が広がり民族間の紛争は起きにくくなります。

都市間交流事業では、今回の受賞の対象となった姉妹都市交換学生プログラムについて後述します。

一方、2008年11月に全国自治体で初めてフェアトレード啓発について市長の決裁をとりました。自治体としての意思決定を得れば他部課にも働きかけやすくなります。経済部商業観光課が所管する「よこすかカレーフェスティバル」にフェアトレードのコーヒーブースを出店したり、総務部秘書課が所管する「よこすか新年賀詞交歓会」にフェアトレードのコーヒーを提供したりと、組織内でも広がりを見せています。



よこすかカレーフェスティバルのコーヒーブース

2011年度の取り組みでは、行政計画への明記を図りました。市政運営の方向を示す実施計画に、国際化推進事業として「フェアトレードの啓発」という項目を明記しました。また、横須賀市環境基本計画にも2つの項目にわたって、フェアトレードを明記しました。

4 姉妹都市交換学生プログラムとフェアトレードの推進

今回の総務大臣賞受賞では、姉妹都市交換学生プログラムを含む都市間交流事業にフェアトレードの啓発を大きく取り込んだことが評価されました。

姉妹都市交換学生プログラムの全体テーマにフェアトレードを設定して、派遣準備研修、事前調査、

現地調査、事後調査によりフェアトレードの意義、横須賀市と各姉妹都市の市民意識等を高校生の視点で比較し、フェアトレードの一層の普及について考えてもらいます。

海外姉妹都市から来日する受け入れ学生に対しては各自国のフェアトレードについて事前調査を依頼し、派遣学生とともに国際ユースフォーラムで各国のフェアトレードの現状について発表してもらいます。

姉妹都市のネットワークを通じてフェアトレードの意義を発信することで、国際協力、環境保全、平和推進を世界レベルで訴えることが可能になります。

横須賀国際交流協会のホームページ内に交換学生用のブログを開設し、フェアトレードの情報提供と情報共有も行っています。若い発信力の活用によって、時間的・空間的な啓発の広がりを図っています。

5 むすびに

フェアトレード啓発を始めるにあたって、本市の3つの基本姿勢を紹介します。

① 「楽にできることから始める」

フェアトレード啓発を新たな一つの事業として構えずに、無理をせず既存事業に相乗りさせながら啓発を始めます。

② 「自分の理解の範囲でできることから始める」

自分で納得できることだけを始めます。購買の啓発に特化することからスタートし、一人でも多くの人にフェアトレード製品を知ってもらい、買ってもらう。この購買が参加行動の第一歩であることをよく理解してPRしていきます。これによって啓発主体である自治体の職員自身が、自分の仕事・行動に自信を持ち始めます。

③ 「汗だけでできることから始める」

予算や人員がなくても、年度の途中からでも、汗だけでできることを見つけ出し、とにかく行動してみます。そうすると自治体内だけでなくほかの組織や機関などにも賛同者が増えて応援してくれます。現時点でも、本市のフェアトレード啓発に関する予算は計上していません。

この紹介を機に、一つでも多くの自治体が、そして一人でも多くの自治体職員がフェアトレード啓発を通じた国際協力に取り組まれることを期待してやみません。